

(仮訳)

ご列席の皆様、日本国外務副大臣の山田賢司です。PKO閣僚級会合・準備会合2日目の開始に当たって、本会合の共催国である日本を代表して一言御挨拶申し上げます。

まずは、本会合の開催に尽力いただいたジラーニ外務大臣及びハイダル国防大臣を始め、パキスタン政府関係者に感謝申し上げます。

また、ラクロワ平和活動担当事務次長及びカレ活動支援担当事務次長のリーダーシップの下、国連事務局がこれまでPKOミッションにおける様々な課題解決に向けて取り組んできていることに敬意を表します。

国際情勢が一層厳しさと複雑さを増す中で、分断ではなく協調の国際社会を実現するために国連が果たす役割はますます大きくなっています。とりわけ、PKOは、派遣国のみならず、その国を含む地域に平和と安定を維持する具体策を提供する重要な政策手段です。

他方、PKOは、即席爆発装置(IED)や偽情報・誤情報といった新たな脅威に直面しており、「要員の安全・安心」の確保が急務となっています。要員派遣国や国連事務局の専門家らによる、本分野における知見・知識の共有はさらなる議論の一助になると思います。

要員の安全・安心をテーマとする今回の準備会合を通じて、このような脅威に対する取組に向けた加盟国間の議論を深めるとともに、本年12月にガーナで開催される閣僚級会合に向けた各国のプレッジを期待します。

日本は、2015年の国連三角パートナーシップ・プログラム(TPP)の立ち上げに貢献し、その旗振り役として、PKO要員の能力構築支援を推進し、これまで8,200万米ドルを拠出してきました。現在、TPPIは地域的にも分野的にも拡大しており、これまでに約1万6,000人の要員を訓練してきました。

要員の安全・安心に資する最近の取組として、約150万ドルを拠出し、TPPの一環で、遠隔医療事業を支援しています。この2年間で、4つのPKOミッション、16か所の医療施設に導入され、運用を開始しており、遠隔地で勤務する要員の医療環境改善に貢献しています。

また、本年は国連平和活動局に対する約140万ドルの拠出を通じて、国連地雷対策サービス部と協力し、IED対策プロジェクトを実施する他、偽情報・誤情報対策プロジェクトも支援しています。

さらには、本年、「国連平和維持インテリジェンス・アカデミー（PKIA）」の新設にも貢献し、欧州諸国とともにPKIAドナーグループを立ち上げました。インテリジェンス分野の要員を訓練し、PKOミッションの早期警戒能力の向上に向け、引き続き取り組んでいきます。

これらの取組を通じて、国連唯一の実行部隊であるPKOはより実効的かつ効率的なものとなり、グテーレス事務総長が掲げる「PKOのための行動（A4P）」及びA4P+にも資するものと考えます。日本としては、このような要員の安全・安心の確保に向けた支援を引き続き行っていきます。また、「新・平和の課題」についての議論にも積極的に関与していく考えです。

国際の平和と安定に対する責務を有する国連安保理非常任理事国として、また、PKO閣僚級会合の共催国として、日本はPKOの改善・強化に向け、引き続き尽力していきます。

最後に本会合の成功をお祈りして、私からの挨拶とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。